

日本中国語学会々報

2011年12月

<http://www.chilin.jp/>

◆目次◆

ご挨拶 平田昌司（会長）	1
2011 年度全国大会総括	2
理事選挙開票結果報告	3
支部例会実施報告 2011.9 - 2011.12	4
会則改正のお知らせ	8
内規改正のお知らせ	9
会議報告	13
例会および全国大会開催のお知らせ	22
事務局からのお知らせ	23

ご挨拶

平田昌司（会長）

10月29日・30日の両日、四国の松山大学での第61回大会は、運営方式を変更した節目となりましたが、成功裡に開催されました。シンポジウム、ポスターセッションなどに新しい工夫がこらされ、今後の新しい発展を予感させるものだったことを、ご参加いただけなかった会員の皆様にもご報告させていただきます。詳しくは本号の大会運営委員会報告をお読みください。増野仁先生・孟子敏先生をはじめとする同大学スタッフ、さらに遠藤光暁委員長をはじめとする全国大会運営委員会のご尽力に対し、参加者を代表してあつくお礼申し上げます。さらに、選挙管理委員会報告にあるとおり、古屋昭弘会員を新会長とする次期理事が大会参加会員の選挙により決定したのも喜ばしいことでした。

2010年4月から事務局をおあずかりし、つくづく思い知ったのが歴代役員・委員のご苦

勞の大きさです。日常業務に影響はありません、と言える方は、たぶんおいでにならないでしょう。学会創立以来、運営を担ってくださった先輩会員に対して、あらためて感謝申し上げます。それに関連して気になったのが、学会規模の拡大にともなう幹事の過重負担を軽減する方策でした。これについては次期理事会でもご検討いただき、あわせて会員の皆様にもできる限りのご協力をいただきたいと思います。

学会は一種の自治組織です。会費の対価として一方的にサービスを受ける/与えるという関係ではなく、互いに少しずつ力を出し合って研究の質を向上発展させていくことが必要です。どうぞ今後とも本学会へのご理解・ご支援をたまわりますように。

2011年12月5日

2011 年度全国大会総括

I. 今年度大会総括

第 61 回全国大会は、松山大学を会場として 10 月 29 日 [土] 30 日 [日] に開催された。

(1) 参加者数

総数は 307 名で、内訳は一般会員が 263 名、書籍等の展示関係者 44 名である。

(2) 総評

今回は開催校のもてなしの心の光る大会であった。開催校代表の増野仁先生が初日のポスター会場の脇にあった茶店で銘茶を淹れるためわざわざ山に名水を汲みに行かれたことは蘇東坡の詩句「活水還須活火煎」を思い起こさせる。懇親会の料理と酒の質と量も素晴らしかった。

初日のシンポジウム「漢語北方話的進行持続体」は増野先生が北方方言の重要性と面白さがアピールできる企画を希望され、講演者として劉勳寧会員を挙げられたのに端を発する。大会運営委員会がそれを承けて更に下地早智子・沈力・孟子敏・竹越孝の各会員に依頼し、他の北方方言や近世ないし明治以降の近過去の状況をカバーすべく緊密な連携のもとに準備していただいた。更に一般言語学的見地からフォローできるよう、司会者としては特にチベット・ビルマ語の一つチノ語の気鋭の研究者である林範彦会員にお願いした。来年度から開始するワークショップの一つのひな形となることも目指したものであった。

当日の実施にあたっては更に孟子敏会員も重要な役割を担われ、今年から事前登録制をやめるなど様々な変更があったものの、大過なく開催することができたことはひとえに開

催校のご尽力の賜物である。

ポスターセッションは、今年度は電子パンフレットを作ったこともあり、改善が見られた。二日目の分科会についても大きなトラブルは報告されていない。

(3) 反省点、改善点

■今年度は応募受け付け時や審査結果発表後にも多くの不都合が発生した。非会員からの申し込みが 10 名以上あり、事務局により失格の判定がなされた。採択者を発表しプログラムを確定した後も、発表を辞退したり、予稿集原稿を期限までに提出しない者が相当数現れた。こうしたケースに対して理由書の提出を求めたが、提出しない者もいた。

■複数の発表者による共同発表が増え、重複規定を明確化する必要が出てきている。

■分科会（口頭発表）は一つ一つの発表の間に 5 分間の休憩を挟むこととした。手持ち無沙汰だったという感想もあったが、パソコンの調整がぎりぎりまでかかった発表もあり、全体としてはやはり必要な如くである。

■6つの分科会会場には、それぞれ 1 名ずつ運営委員を配置して進行状況をモニターした。

■追加資料の配布は認めない点を徹底した。予稿集の誤記を板書するのに時間がかかっている状況も見られたが、提出前の校正を厳密に行うこと、予稿集という性質上、正式発表時にきちんと校正することで発表者は対応されたい。

■この他、名札・領収書・タイムキーパーなどのあり方に関する改善点については委員会としても認識している。

Ⅱ. 来年度の全国大会にむけて

- (1) 来年度の第62回大会は10月26日・27日の両日、同志社大学京田辺キャンパスで開催する。講演者はフランスの東洋言語大学の徐丹教授に内定しており、中国語文法の類型の転換——通言語的・通時的・共時的・言語接触のパースペクティブをめぐる演題となる予定である。同教授の略歴・業績目録は<http://crlao.ehess.fr/document.php?id=268>を参照されたい。最新の著作目録は本学会のホームページの大会関連のところにも掲載する。
- (2) 従来5月下旬までに大会応募要項を国内会員には郵送していたが、海外会員には送付されないことへの不満があり、また他学会では要項を別途郵送することはないため、来年度からはホームページでの告知に一本化する。4月初旬頃までには学会ホームページに掲載されるので、その要領に沿って応募されたい。
- (3) 来年度からはワークショップも開始する。連携プレーとなり、より入念な準備を要する

ため、応募時期は2012年1月15日から3月31日とする。詳細については2011年12月末までに学会ホームページに応募要項を掲載するので参照されたい。

- (4) 開催校の他に大会運営委員会を立てて大会準備を行う方式はなお過渡期にあり、今年度の経験をふまえて改善を進めたい。大会発表応募者数が非常に多くなっており、開催校の引受先を見つけるのも一層困難となっている。運営委員会でも少数の委員が自ら膨大な事務をこなしているため、言語学会など他学会のやり方も参考にしつつ極力簡素化を図る方向としたい。来年度以降も引き続き応募者・参加者のご理解とご協力をお願いする。

(全国大会運営委員会)

理事選挙開票結果報告

第61回全国大会第1日目（松山大学、2011年10月29日）に理事選挙が行われました。開票の結果、以下の方々が次期（2012-13年度）会長および理事に当選されました（「会長及び理事選出に関する内規」参照）。なお副会長につきましては、後日、新会長が理事の中から委嘱することになります。

当選者並びに各得票数は以下の通りです。

■ 投票総数：512票（うち、有効投票総数441票、白票39票、無効票32票）

■ 得票数：

1. 古屋昭弘	44（会長）
2. 三宅登之	41
3. 楊 凱榮	31
4. 依藤 醇	20
5. 大西克也	18
小野秀樹	18
7. 太田 斎	14
8. 佐藤富士雄	13（以上理事）
次点 山崎直樹	12

（選挙管理委員長 佐藤晴彦）

支部例会実施報告 2011.9 - 2011.12

◆関東支部例会

◇2011年9月24日(土) 日本大学文理学部

・施正宇(北京大学对外漢語教育学院): 六书, 偏旁与部件—汉字结构分析的历史演变

六书, 偏旁和部件是汉字研究与教学实践中常常使用的名词术语, 但什么时候用六书, 什么时候用偏旁, 什么时候用部件, 为什么要用六书, 为什么要用偏旁, 为什么要用部件, 却是一个令人困惑的现象。本研究从汉字结构分析的历史演变入手, 考察分析六书, 偏旁及部件出现及使用的文字学背景, 研究三者之间的本质区别与内在联系, 以期解答上述疑惑。

・宮田和子: 対訳漢和英字書 Eclectic Chinese-Japanese-English Dictionary (1884)について—継承関係を中心に—

標題の辞典の発見者は米国マサチューセッツ州在住の Dominique Kenshi Numakura 氏で、氏によれば本辞典は世界各地の図書館、資料館に保管されているにもかかわらず、なぜか研究の対象として扱われたという確証はないという。編纂者は、在日経験のある宣教師 Ambrose Daniel Gring(1849-1934)で、かなり日本語を解したとされるが、本辞典編纂の経緯は不明。西洋人ならではの部首をめぐる詳細な分析は、ペリーの随行者 S. W. Williams の著作と、西洋式印刷技術を初めて日本に伝えた William Gamble の示唆に拠るところが多いと思われるので、この点に焦点を絞って報告したいと考えている。中国関連の例会では、これが最初の報告である。

◇2011年12月3日(土) 慶應義塾大学

・許征(東京(株)国書日本語学校): 京剧韵白的实验语音学研究

京剧“唱念做打”中的“念”大致可分韵白、京白、怯口三种, 其中韵白最具特色, 表现力丰富。本研究从语音学角度使用语言实验的方法(语音分析软件 Minispeechlab)对京剧韵白的声调进行了系统的实验分析、得出韵白的声调音长、音高曲线和调值等数据并归纳出韵白声调系统模型。本次实验收集了7种行当(老生、武生、小生、青衣花旦、老旦、花脸、丑)的22名专业京剧演员以及京剧理论家的单字调和两字调的语音资料, 将各位发音人的语音数据进行横纵向比较。通过对“个人差”的分析来讨论行当以及流派与韵白声调之间的关系、发现了青衣花旦与其他行当在“上声”上的明显区别。本研究完成了对韵白认识的从主观听觉感知到客观理性识别的过程。

・星健一(中央大学・非): 略語構成過程における原形分割—序数の移動を視野に入れて—

略語の構成過程に関する先行研究には、原形をいくつかの部分に分割して考察するものがある。しかし、先行研究における原形分割はもっぱら字の残留と消去のあり方の規則を説明するためのものであり、原形“第一实验小学”から略語“实验一小”が構成される過程で生じるような序数の移動には言及しない。本研究は、字の残留、消去とともに略語構成過程をなす序数の移動をも視野に入れた原形分割法の構築を試み、本稿が“節”と呼ぶ単位への原形分割の方法がこれに該当すると結論付ける。原形の“節”への分割によると、序数の移動は序数を含む一つの節の移動ととらえられ、序数がどのような場合にどのように移動するかを把握することが可能になる。

- ・ 舘野由香理（聖徳大学・院）：日本字音における中古漢語の唇内入声音について

「雑（ザツ）」「執（シツ）」のように、日本字音で中古漢語の唇内入声音が「ーツ」になるのは、無声子音が続いたために促音化が起こり、それが字音として定着したためだと考えられている。しかし、「雑炊（ゾウスイ）」「執着（シユウチャク）」のように、無声子音が続いても規則的に促音化するわけではない。現代漢語を対象とした調査では、原音の韻類および後接子音との関連は認められないが、一方、促音化を生じる直前の母音との関連は認められる。本発表では、現代漢語における唇内入声音の促音化について分析し、それをもとに歴史的事実についても推測する。合わせて、字音（漢字の音）と語音（漢語の音）の関係を明らかにしたい。

◆東海支部例会

◇2011年11月19日（土）中京大学

- ・ 清水勝昭（中日本自動車短期大学）：外来語の受容における仮名と漢字の文字機能—中国語母語者によるカタカナ語習得困難意識の要因

中国語を母語とする日本語学習者にカタカナ語習得困難意識が存在することがわかっている。発表者の関わる自動車整備技術教育でもカタカナ語の自動車部品名称が、学習上、教育上のネックになっている。その要因について、先行研究は、外来語をめぐると日本語と中国語が語彙と文字の両面において類似度が低いことを挙げる。しかし、語彙面では音訳傾向と意識傾向、文字面では表音性と表意性という比較では十分に解明できない。本発表では、日中両語の外来語の特徴の差異を明らかにするためには、文字の働きを検討する必要があると考えた。その結果、外来語の受容において、日本語の仮名と中国語の漢字に異なる文字機能が存在することを指摘する。

- ・ 古川竜治（中日本自動車短期大学）：中国若者世代の「謝罪」行為に関する社会的相関性とその変化について

中国の経済的急成長とともに、現代の若者世代の価値観や行動も大きく変化しつつあるといわれている。その変化の一面を、基本的なコミュニケーション行為のひとつであり、かつ特定の社会における倫理観や規範などが投影される「謝罪」行為という視点から探ってみた。調査は中国人大学生（在日留学生含む）を中心に、「謝罪」における“社会的属性”、“場面”、“状況”別観点からみた彼らの意識や行為、さらに実際に用いる謝罪表現等についてアンケート調査方式で行った。本発表ではそのデータを20年前に行われた同様の研究成果とも比較することで、中国若者世代のコミュニケーション行為の一面における意識や行為の変化とその特徴について考察を試みる。

- ・ 張勤（中京大学）：中国語の要請と敬意について—注意書きの形式と表現から

本発表は、中国語の注意書きなどの表現を通して、中国語の要請表現に見られる対人意識を概観する。中国語による注意書きは、形式において、読み手に最大の敬意を払うものと、絶対的に従わせる尊大なものが存在するが、そのどちらも突き詰めて言えば、読み手とのストレートな関係を目指すものである。最大の敬意を払う前者は、形式上では敬意を十二分に示すものであるが、形式上の敬意のゆえに読み手を突き放す意味合いが生じてしまう。それと反対に読み手にまったくの選択権を与えない後者の尊大な表現が、あまりのストレートさに読み手に殴り掛かってきそうな勢いを感じさせてしまう。このような両極端にある表現において、いわゆる敬意をどう考えればよいのか、そして両極端にある表現に対して、お互いの形式を互換して示してみればどうなるのか、といったことについて考えてみたい。

◆関西支部例会

◇12月11日(日)大阪産業大学梅田サテライト

- ・史彤春(大阪市立大学・非常勤講師):“毕竟”的语义特征及语用功能分析——兼与“到底”句对比

语气副词“毕竟”的语义虚化程度高,用法难以掌握,是对外汉语教学中的难点。目前各家词典及论著对“毕竟”的解释也尚未统一。本文从考察“毕竟”句的语义格局入手,分析了“毕竟”的语法意义、隐含义及传信功能等语用功能。认为“毕竟”的语法意义是:(1)说话人认为是不可否认,不能忽视的事实,这一事实对说话人的观点起着决定性的作用;(2)指出作为理由的事实,这一事实隐含了听说双方常识中共认的常理。有“必须重视”“必须承认”“不得不承认”等隐含义。在传信功能上,“毕竟”句多是重申旧信息,有时也引入新信息。另外,本文还对“毕竟”和“到底”进行了考察,分析了二者在语义格局、语法意义、语用功能等方面的共性与个性。

- ・中野尚美(同志社大学・院):山西方言における後部歯茎音の前方移動

中古漢語には、知・庄・章組という3グループの後部歯茎音声母が存在した。中古漢語における後部歯茎音声母と、現代山西方言声母の対応関係には、以下のような類型がみられる。(1)三分型:[tʂ/tʂ/pf](运城など)、(2)二分型:a.[tʂ/tʂ](忻州など)、b.[tʂ/pf](永濟など)、c.[tʂ/pf](聞喜など)、(3)合流型:a.[ts](太原など)、b.[tʂ](陽城など)。これらの類型はどのように形成されたのだろうか?本発表では以下のような仮説を提案する。(1)山西方言においては、中古漢語における後部歯茎音声母に前方移動が起こった。(2)後部歯茎音声母に母音i、uが後続する時、前方移動が阻害されるが、阻害の程度は方言によって異なる。

【講演】

汪鋒(北京大学):漢藏語言比較的方法与实践——漢、白、彝語比較研究

本研究以漢藏語言中的漢語、白語和彝語為對象,探討漢藏語言比較的方法。我們堅持以下嚴格的步驟來進行比較:1.在內部比較的基础上重構原始語言;2.兩兩比較各原始語言,構建關係語素數據庫;3.區分關係語素的層次,盡量析出最早層次;4.根據不可釋原則,詞階法等推斷最早層次關係語素體現的語源性質;5.如果三者之間是同源關係,則根據獨特的共享創新,共同核心語素的比例等進一步比較三者之間親緣關係的遠近。從基本詞匯、語音、語義和語法各方面來看,三者的關係都應該寫作:(原始白語、上古漢語)原始彝語。

◆中国支部例会

◇2011年10月16日(日)広島大学

- ・滕小春(広島大学・非):日本人学習者の中国語の理解力と表現力の特徴—調査と統計の手法による—

日本人の学習者は漢字の知識をもっているため、中国語の単語や文などを学習するとき、インプットした言語情報において、取り込み、統合或いは文法体系の発達などの認知処理が不十分だとしても、中国語に対する理解力が高いと思われる。しかし、これについてはまだ科学的に解明されていない。本研究は、中国語に関する学生の理解力と表現力に関して調査を行った。また、その能力に関する評価について、複数の教員に対して調査を実施した。それらの調査結果を統計学に基づいて科学的に分析して、日本人学習者が漢字を知っていることが、中国語を学習する際の理解力と表現力にどのように影響を及ぼすかについて考察した。

◆九州支部例会

◇2011年12月17日(土) 熊本大学

・李智麗(熊本大学・院): 現代中国語副詞“也”の
意味解釈と音韻構造との関係について

一般的に、中国語の語順は比較的固定していて、文の意味を決定するのに大きな役割を果たしていると言われている。しかし、語順だけによっては、文の意味を必ずしも完全に表せない場合も存在する。本稿は現代中国語の副詞“也”に注目し、“也”を含む多義文の音韻的特徴を明らかにし、特にストレス(中国語学という「重音」)の種類、位置とその役割を解明する。特に、実現する“也”の意味との関係に関する考察を試みる。さらに、他の多義的な副詞においても、音韻(重音)と意味の関係を同様に分析できることを示す。

設問に統一されている。2010年度より、このe-Learning小テストの成績を30%で科目成績評価に取り入れ、中国語I履修者全員を対象に実施している。設問集データベースを利用して筆者のみ小テストを自由に作成することができるのとどまらず、筆者の担当科目に授業担当の中国語非常勤講師全員を登録したため、彼らは自分の担当科目にこの設問集を移行し、自由に小テストを作成することもできる。これによって、小テスト設問集の共有を実現した。4択の単一選択式なので、採点をクリックして、自動的に採点する。また、小テストを実施した結果を自動的に集計でき、その集計結果を利用して、正答率や誤答の傾向などを分析することができる。今後の初級中国語教授に寄与できると考えられる。

・宮下尚子(熊本大学・非): 元曲元刊本における一人称代名詞

元曲元刊本(『元刊雜劇三十種』)に用いられる一人称代名詞には、〈我、俺〉の他にも〈偌、咱、咱、吾、某、自家〉がある。本発表では、主に〈我／俺〉の区別を中心に、(1)先行研究の紹介、(2)一人称代名詞の定義、自称詞との区別、(3)関連説明として韻書の記載と推定音価および声調(調値の推定は今後の課題でもある)、(4)戯曲ごとの用例および単純な使用回数の検討、を行う。まとめとして、単数複数、単独属格、除外包括、有標無標といういくつかの対比のキーワードにより〈我〉と〈俺〉の区別を論じたい。

・李偉(久留米大学): 初級中国語授業におけるe-Learning小テストの応用

本学においては、2009年4月よりNECのi-Collabo Learningシステムを導入した。そのe-Learningシステムを利用して、中国語Iの小テスト設問集を作成した。中国語発音70問、1課10問で38課の380問合計450問の構成で、すべて4択の単一選択式の

会則改正のお知らせ

■ 2011年10月29日、松山大学で開催された総会におきまして、以下の会則の改正案が承認されました。ウェブ会員管理システムの導入にともない、「通常会員」と「団体会員」の種別と権利を明確にする必要が生じたことによる改正です。

改正前	改正後
<p>第2章 会員</p> <p>第4条 [会員]</p> <p>1. 本会の会員は通常会員、海外会員、名誉会員及び賛助会員からなり、所定の会費を納めたものとする。</p> <p>2. 通常会員、海外会員は本会の趣旨に賛同し、斯学を攻究する個人または研究教育機関とする。</p> <p>3. 名誉会員は多年本会の会員で本会に功労があったものとする。名誉会員は会費を免除される。</p> <p>4. 賛助会員は本会の趣旨に賛同し、本会を賛助するものとする。</p> <p>5. 各種会員に関する規定は内規に定める。</p> <p>第6条 [会員の権利]</p> <p>会員は第3条に定める全国大会、研究例会及び学会誌において、研究を発表することができる。また各種事業に関する情報の提供と学会誌の配布を受ける。</p>	<p>第2章 会員</p> <p>第4条 [会員]</p> <p>1. 本会の会員は通常会員、団体会員、名誉会員及び賛助会員からなり、所定の会費を納めたものとする。</p> <p>2. 通常会員は本会の趣旨に賛同し、斯学を攻究する個人とする。</p> <p>3. 団体会員は本会の趣旨に賛同する研究機関とする。</p> <p>4. 名誉会員は多年本会の会員で本会に功労があったものとする。名誉会員は会費を免除される。</p> <p>5. 賛助会員は本会の趣旨に賛同し、本会を賛助するものとする。</p> <p>6. 各種会員に関する規定は内規に定める。</p> <p>第6条 [会員の権利]</p> <p>1. 会員は各種事業に関する情報の提供と学会誌の配布を受ける。</p> <p>2. 通常会員は、所定の手続きを経て、第3条に定める全国大会、研究例会及び学会誌において、研究を発表することができる。</p> <p>3. 通常会員は、学会所定の方法による選挙において、選挙権および被選挙権を有する。ただし、海外の会員は選挙権および被選挙権をもたない。</p>

内規改正のお知らせ

- 2011年10月29日、松山大学で開催された評議会において、内規の改正が承認されました。

改正前	改正後
2. 賛助会員に関する内規 (→第4条関連) 賛助会員は原則として企業法人で、入会は会長の承認による。	2. 賛助会員に関する内規 (→第4条関連) 賛助会員は、原則として日本国内の企業法人であり、入会は理事会の承認による。

【改定理由】 海外の企業法人の場合、事務局にとって事務上の負担が非常に重い。また、賛助会員の認定には慎重さが求められ、会長のみでの判断では責任が大きすぎる。

改正前	改正後
3. 海外会員に関する内規 (→第4条関連) (1) 海外在住の研究者が入会を希望する場合は、学会ホームページより申込書をダウンロードし、必要事項記入の上、学会事務局に送付する。 (2) 海外会員は、全国大会、研究例会等本学会が主催する各種学術活動に参加し、『中国語学』及び会員名簿を受け取る権利を有する。ただし、選挙権及び被選挙権は有さない。	内規を廃止する。

【改定理由】 会則の変更により、内規の必要性が失われた。

改正前	改正後
[委員会及び支部] (→第5章関連) 1. 委員会に関する内規 (→第15条、第16条関連) (1) 編集委員会、ウェブリソース委員会、全国大会運営委員会を設置する。	[委員会及び支部] (→第5章関連) 1. 委員会に関する内規 (→第15条、第16条関連) (1) 常設委員会として、編集委員会、ウェブリソース委員会、全国大会運営委員会を設置する。必要に応じて、理事会および評議会の承認により、期限を限って臨時委員会を設置することができる。

【改定理由】 辞典編纂委員会を設置する必要がある。

改正前	改正後
<p style="text-align: center;">会長及び理事選出方法に関する内規 (→第 10 条関連)</p> <p>(1) 会長及び理事の選出は、全国大会出席会員(賛助会員を除く)の投票によるものとする。</p>	<p style="text-align: center;">会長及び理事選出方法に関する内規 (→第 10 条関連)</p> <p>(1) 会長及び理事の選出は、全国大会に出席した国内の通常会員の投票によるものとする。</p>

【改定理由】 団体会員を除外するため。

改正前	改正後
<p style="text-align: center;">[会費納入に関する特別規定] (2009 年度より改正施行)</p> <p>2. この特別制度の適用を希望する会員は、学会ホームページより申込書をダウンロードし、必要事項記入の上、学会事務局に郵便またはファックスで送付する。電子メールでの申し込みは受け付けない。「ネット会員」の認定は会長の監督の下で事務局が行う。なお、申請の時期に関わらず、本制度の適用は次年度の 4 月からとする。ただし、新入会員については入会時に「ネット会員」の適用を申請することができ、認定後ただちに本制度の適用を受けることができる。</p>	<p style="text-align: center;">[会費納入に関する特別規定] (2011 年度より改正施行)</p> <p>2. この特別制度の適用を希望する会員は、学会に対して申請する。「ネット会員」の認定は会長の監督の下で事務局が行う。なお、申請の時期に関わらず、本制度の適用は次年度の 4 月からとする。ただし、新入会員については入会時に「ネット会員」の適用を申請することができ、認定後ただちに本制度の適用を受けることができる。</p> <p>3. ネット会員は、必ず有効な電子メールアドレスを学会に通知し、学会からの連絡を受けるものとする。</p>

【改定理由】 ネット会員の中に有効なメールアドレスを届け出していない例がみられる。その場合、文書が送られないため、学会からの各種通知を受けることができない。

改正前	改正後
<p>[付則]</p> <p>2. 会則、内規の変更は、会員総会、評議会での決定後、次年度の4月1日より施行される。</p> <p>3. 本会則第9条第2項については、2012年度理事選挙より適用し、この時すでに連続2期理事職にあるものは被選挙人名簿から外すこととする。また、2010年度選挙のみの移行措置として、2010年度の理事選挙では、会長・理事長経験者は被選挙人名簿から外すこととする。</p>	<p>[付則]</p> <p>2. 会則、内規の変更は、会員総会、評議会での決定と同時に、施行時期を定める。</p> <p>3. 本会則第9条第2項については、2012年度理事選挙より適用し、この時すでに連続2期理事職にあるものは被選挙人名簿から外すこととする。</p>

【改定理由】規定変更は、施行時期を必要に応じて定められることがのぞましい。2010年度選挙の移行措置は、必要がなくなった。

■あわせて、会員情報管理システムに関する内規、会計管理に関する内規、日本中国語学会奨励賞選考に関する内規の新設が承認されました。以上の内規改正は、2011年10月29日付で施行します。

会員情報管理システムに関する内規

(2011年10月29日施行)

- (1) 本会の会員情報管理システム（以下、e-nafと略称）が保有する会員情報は、会の運営ならびに会員相互の研究上の連絡および親睦のために必要な範囲内でのみ使用する。
- (2) 情報管理責任者は、会長とする。ただし、情報管理担当者として副会長・幹事のうち1名を会長が指名することができる。
- (3) 本会の会長・副会長・幹事・ウェブリソース委員長は、e-nafの管理者ログイン権限をもつことができる。上記以外の者に管理者権限を貸与してはならない。
- (4) 会長・副会長・幹事は、1.の目的のために必要な会員情報を参照することができる。
- (5) ウェブリソース委員長は、1.の目的のために必要だとウェブリソース委員会が認めたメール配信を、e-nafを通じておこなうことができる。
- (6) 編集委員長・全国大会運営委員長は、各委員会の目的に必要な範囲内で、会員情報の開示を会長に求めることができる。
- (7) e-nafが保有する会員情報は、会員本人が開示を認めている範囲で、会員名簿の形式により通常会員・賛助会員に対して配布する。

会計管理に関する内規

(2011年10月29日施行)

- (1) 日本中国語学会の会計処理のための必要事項を取り決め、学会の収支および財産の状態を明らかにし、会員より負託された資金のすべてが日本中国語学会会則第2条に定める目的に従い有効に使用されるよう、本内規を定める。
- (2) 会計責任者は会長とする。
- (3) 経理担当者として幹事のうち1名を会長が指名する。ただし、科学研究費補助金の経理については、別とする。
- (4) 科学研究費補助金は、専用の会計帳簿を作成して管理し、他の資金と混用してはならない。
 - (4-1) 科学研究費補助金の経理については、執行担当理事を定める。
 - (4-2) 科学研究費補助金の交付を受けた場合は、専用の銀行口座を開設し、助成期間が終了する直前に銀行口座を解約する。
- (5) 会長は、次年度予算原案を作成し各年度の理事会・評議会の審議に付する。評議会で承認された予算は、会員総会に報告される。
- (6) 一切の取引は領収証等の会計処理証拠書類に基づいて処理し、会計帳簿に記帳する。
- (7) 経理担当者と科学研究費補助金執行担当理事は、それぞれ決算書原案を会長に提出し、会長の決定に従って決算書を作成する。決算書及び関係書類は、学会内会計監査による監査を受け、評議会の承認を経たのち、会員総会に報告される。
- (8) 会計関係書類は5年間保管する。保存期間は、会計年度終了日の翌日から起算する。保存期間が経過した帳簿書類は、会長の承認を受けて処分する。
- (9) 会長は会計業務の一部を他の者に委託することができる。
- (10) 金融機関との取引にあたり、預金の名義人は会長とする。
 - (10-1) 出納に使用する印鑑は、会長が保管し押印するものとする。
 - (10-2) 前項の定めにかかわらず、会計監査全員の承認があれば、会長は印鑑の保管と押印を他の者に委託することができる。ただし、当該の委託された者が金融機関との取引を開始、または廃止するときは、会長の承認を受けなければならない。

日本中国語学会奨励賞選考に関する内規

(2011年10月29日施行)

(1) 目的

本賞は、優れた若手研究者を顕彰することにより、次世代を担う研究者の育成に資することを目的とする。

(2) 対象

前年度の『中国語学』に掲載された論文のうち、本目的に最も相応しい論文の執筆者を対象とする。

(3) 候補者の資格

『中国語学』の投稿締め切り時において、原則として40歳未満の者を候補者とする。なお、執筆者が複数の場合、全ての執筆者が会員であり、かつ本条に定める要件を満たしていることを要す。

(4) 選考

編集委員会において選考を行い、候補者を理事会に推薦した後、理事会の議を経て会長が受賞者を決定する。受賞論文は原則として一本とする。但し、本目的に相応しい論文がない場合は、候補者を推薦しない。

(5) 授与

日本中国語学会全国大会において、会長が正賞（賞状）と副賞（奨励金）を授与する。

会議報告

■全国大会運営委員会

委員：遠藤光暁（委員長）、岩本真理、遠藤雅裕、佐々木勲人、石汝杰、竹越孝、張勤、増野仁、三木夏華、望月圭子、山田眞一

1. 新旧委員交代

2011年10月30日で任期満了：山田眞一、岩本真理、望月圭子、増野仁（開催校代表）。

1年任期で再任：石汝杰、張勤、佐々木勲人。
残存任期1年：遠藤光暁、竹越孝、遠藤雅裕、三木夏華。1年任期で新任：大西博子、丸尾誠、森宏子、沈力（開催校代表）。なお1年任期は

2年ごとに委員半数交代のための過渡期の措置であり、2011年度第1回理事会で了承済。

2. 2011年度大会審査結果

応募総数101件。うち1件は締切後到着のため除外。締切後に事務局により13件が入会手続を済ませておらず応募資格を満たしていないことが確認され、除外。有効申し込み数87件について要旨の審査を行った。採択件数71件（口頭発表58件・ポスター発表13件）、不採択件数16件。採択通知後に取消者が5名あり（うち1名はポスター発表）、4名が理由

書提出済、1名は理由書未提出。ほか予稿集締切遅延者4件も理由書提出済。

3. 異例のケースに対処するための手段

来年度は従来からの1)「理由書」の提出を求める、の他に、2)運営委員会から注意を促す、3)次年度の応募資格を認めない、という手段を加える。

4. ワークショップの設定

2012年度大会から同一テーマの下で複数の発表からなるワークショップの公募を開始する。詳細については次年度大会募集要項作成の際に詰める。

5. 来年度応募要項追加事項

今年度の状況に基づき、2012年度の応募要項に、日本入国ビザが必要な場合は応募者が自分で保証人を見つける旨の条項を入れ、他にも共同発表に関連した重複応募の条件を整備し、更に二重投稿に関連した条項、会員資格に関わる条項などを一層明確に定義し、応募申請用紙を準備する。

6. 予稿集の図書館寄贈

松山大会から予稿集を国会図書館に1冊、開催校図書館に1冊献本する。過去の予稿集についても可能な限り遡及して同様の形で献本し、公共図書館での保存および利用に供する。

7. 応募要項の郵送廃止

2012年度より従来5月に発送していた応募要項の郵送を取りやめる。2011年度までは4月上旬頃までにホームページでも告知しており、以後はその方式に一本化する。ワークショップについては2011年12月末までにホームページに応募要項を掲載する。

◇今年度大会の実施に関する総括は、p.2を参照。

■ 編集委員会

◆2011年5月から9月の間、メールによる審議を行った。

【議事】

1. 第1回理事会で承認された「日本中国語学会奨励選考に関する内規」の文面につき、理事会で出された意見を踏まえて修正を行い、第2回理事会に提案することとした。

2. 『中国語学』執筆要領を改正した。オンライン会員情報管理システムの導入に伴い、表紙に会員番号の記載を求めるものである。

(2. 投稿原稿の構成 (1) 表紙関連)

改 正 前	1. 原稿の種別 (研究論文、資料) 2. 論文タイトル (日本語・中国語・英語) (3言語) 3. 執筆者氏名 (日本語・中国語・英語) (3言語) 4. 所属機関 (ない場合は「なし」と明記) 5. 連絡先 (住所、郵便番号、電話番号、 電子メールアドレスを明記)。[共著論文 の場合は全員について記載する。]
-------------	---



改 正 後	1. 原稿の種別 (研究論文、資料) 2. 論文タイトル (日本語・中国語・英語) (3言語) 3. 執筆者氏名 (日本語・中国語・英語) (3言語) 4. 会員番号 (共著論文の場合は会員全 員について記載する。) 5. 所属機関 (ない場合は「なし」と明記) 6. 連絡先 (住所、郵便番号、電話番号、 電子メールアドレスを明記)。[共著論 文の場合は全員について記載する。]
-------------	--

■ウェブリソース委員会

1. 委員の異動

2012年3月末で石村広委員が任期満了となる。後任の委員は現在、人選中である。

2. 委員長の交代

2012年3月末で山崎直樹委員長が任期満了となる。後任として、現在の委員の中から鈴木慎吾委員が推挙され、承認された。

3. その他

学会発行のメールマガジンを e-naf 上から配信しているが、時々、受信側のメールサーバーに「迷惑メール」と判定された受信を拒否されることがあるので、その場合は、会員自身で対処をお願いしたい旨、委員長から会員に依頼があった。

■辞典編纂委員会

◇2011年度第1回辞典編纂委員会

日時：2011年10月30日（日）12時～13時20分

場所：松山大学7号館731教室

出席者：平田昌司（委員長）、池田巧、大西克也、小野秀樹、木津祐子、朱春躍、竹越孝、三宅登之、山崎直樹、楊凱榮（以上委員）

【議事】

1. 委員長から、本学会編『中国語学辞典』の刊行計画について、岩波書店編集部との交渉を本年3月17日・5月15日・8月30日におこなってきた経緯が報告された。

2. 辞典編纂委員以外に、項目選定および字数・執筆者選定の作業に協力する編纂協力者を依頼することを確認した。音声音韻・史的研究・現代語文法・総合の分野別に、編纂協力者の人選案を検討することとした。

3. 辞典の対象としてあつかう事項について、意見交換をおこなった。

4. 本年12月10日に東京都内で関東在住の委員を中心とした会議を開くことを確認した。

■2011年度第2回理事会

日時：2011年10月28日（金）17時～19時

場所：松山大学東本館7階会議室

出席者：平田昌司（会長）、三宅登之（副会長）、荒川清秀、遠藤光暁*、佐藤晴彦、古屋昭弘、依藤 醇（以上理事）；大西克也（編集委員会委員長）；山崎直樹（ウェブリソース委員会委員長）；池田 巧、緑川英樹（以上幹事）

欠席者：古川裕

* 大会運営委員会委員長を兼ねる

■2011年度評議会

日時：2011年10月29日（土）10時30分～11時30分

場所：松山大学 カルフル3階会議室

出席者：構成員46名（定数61名）

■2011年度総会

日時：2011年10月29日（土）17時～18時

場所：松山大学 カルフル3階ホール

【議長選出】

議長に松江崇会員（北海道大学）と岩本真理会員（大阪市立大学）を選出した。

【報告事項】

1. 一般報告

1.1 会員動向（10月1日現在）

会員数：（2010年10月1日から1年間の増減：除籍予定者、住所不明者、年度末退会予定者を含む）

[今年度除籍予定者] 39名（国内会員29名/ 賛助会員1名 / 海外会員9名）

			増減
総会員数（賛助除く）		1250 名	+29
(内訳)	顧問	6 名	0
	名誉会員	25 名	0
	通常会員	844 名	-18
	ネット会員	280 名	+31
	団体会員	9 名	(+9)
	海外会員	86 名	+11
賛助会員		28 社	0

* 会員動向については、直近の数字ではなく、今後は 4 月 1 日付の状況を春の理事会に、10 月 1 日の状況を秋の理事会に報告することとしたい。[除籍者は 10 月中に確定したい]

* e-naf の管理者ページには、賛助会員およびダミーデータ 1 名および海外特別編集委員 4 名と国内寄贈会員 1 名を加えた合計 1285 名を「現在の会員数」として表示 [10 月 1 日付]。

1.2 会費の納入状況

10 月 20 日現在、名誉会員等を除外した会費を納入すべき会員数 1186 名：国内通常会員 810 名（含住所不明 7）ネット会員 262 名（含住所不明 3）海外通常会員 78 名、賛助会員 27 名、国内団体会員 9 名中、「会費未納あり」が 382 人で約 32%。2011 年度入会の未納者 9 件、2010 年度入会で未納額 2 年分、つまり入会手続後いちども会費を払ったことがない者が 3 名。なお 09 年度入会で未納額が 3 年分に達した除籍者、つまり入会以来いちども会費を払わずに除籍扱いとなった者が 7 件（国内 5 海外 1 賛助 1）。08 年入会の除籍者、つまり入会年度にいちど会費を納入しただけで除籍となった会員が 10 件（国内 6 海外 4）。

1.3 支部例会関連

- ・『中国語学』258 号「彙報」を参照。
- ・支部例会開催通知をハガキとメールの 2 本立てにする。将来的にはメールに移行。

2. 編集委員会報告

- 『中国語学』256 号が刊行された。
- 『中国語学』執筆要領（2010 年 11 月改訂）の記載項目を修正した。該当部分は以下のとおり。

2. 投稿原稿の構成

- 2-1. 本文が日本語の場合、次の A、B のうち一方を選択。

A（サマリー・キーワードが中国語の場合）

B（サマリー・キーワードが英語の場合）

- 2-2. 本文が中国語の場合

- 2-3. 本文が英語の場合

いずれの場合も (1) 表紙（1 枚、ページ番号はつけない）に記載する項目として

4. 会員番号 [共著論文の場合は会員全員について記載する。]

を追加し、以下の項目番号を順に付けかえて送るように改めた。

- ・投稿の際には、必ず最新の投稿規程・執筆要領を学会ホームページで確認するようお願いしたい。

- 今年度は学会奨励賞の採択はなかった。

3. ウェブリソース委員会報告

2012 年 3 月末で山崎直樹委員長、石村広委員が任期満了となる。委員長の後任には鈴木慎吾会員（大阪大）を推薦。

4. 大会運営委員会報告

- 新旧委員交代

- ・2011 年 10 月 30 日で任期満了：山田眞一、岩本真理、望月圭子、増野仁（開催校代表）
- ・1 年任期*で再任：石汝杰、張勤、佐々木勲人

・残存任期1年：遠藤光暁、竹越孝、遠藤雅裕、三木夏華

・1年任期*で新任：大西博子、丸尾誠、森宏子、沈力（開催校代表）

*2年ごとに委員半数交代のための過渡期の措置。2011年度第1回理事会で了承済。

b. 2011年度大会審査結果

応募総数101件。うち1件は締切後到着のため除外。締切り後に事務局により13件が入会手続を済ませておらず応募資格を満たしていないことが確認され、除外。有効申し込み数87件について要旨の審査を行った。採択件数71件（口頭発表58件・ポスター発表13件）、不採択件数16件。採択通知後に取消者が5名あり（うち1名はポスター発表）、3名が理由書提出済、2名は理由書未提出。ほか予稿集締切遅延者4件も理由書提出済。

c. 異例のケースへの対処

来年度は従来からの1)「理由書」の提出を求める、の他に、2)運営委員会から注意を促す、という手段を加える。更に、3)次年度の応募資格を認めない、という手段が必要か検討したが、継続審議となった。

d. ワークショップの設定

2012年度大会から同一テーマの下で複数の発表からなるワークショップの公募を開始する。詳細については次年度大会募集要項作成の際に詰める。

e. 来年度応募要項追加事項

今年度の状況に基づき、2012年度に応募要項に、日本入国ビザが必要な場合は応募者が自分で保証人を見つける旨の条項を入れ、他にも共同発表に関連した重複応募の条件を整備し、更に二重投稿に関連した条項、会員資格に関わる条項などを一層明

確に定義し、応募申請用紙を準備する。

f. 予稿集の図書館寄贈

松山大会から予稿集を国会図書館に1冊、開催校図書館に1冊献本する。過去の予稿集についても可能な限り遡及して同様の形で献本し、公共図書館での保存および利用に供する。

5. 次期理事の選挙について

・選挙管理委員を佐藤晴彦（委員長）、鈴木慎吾、秋谷裕幸、池田巧（事務局幹事）の各会員に委嘱。

・10月29日、全国大会会場において投開票。（結果はp.3を参照）

6. 次期大会開催校の決定

同志社大学（京田辺キャンパス）、2012年10月27日（土）28日（日）。

8. 入退会手続きについて

a. 新入会

新入会希望者は、初年度会費の支払い手続きが確認できるまでは「仮登録」あつかいとなり、会員としての待遇を受けることができない。

b. 発表（全国大会・会誌）申込と会員資格

1) 発表の申込は会員に限る。新入会員の場合は、必ずe-naf等で入会申し込み手続きをし、国内会員の場合は郵便振替を、海外会員の場合はクレジットカードを利用して、会費支払い手続きを完了していなくてはならない。

2) 会員が発表申込をし、かつ未納会費がある場合、応募受付期間最終日まで未納会費の全額を支払わなくてはならない。支払い手続きがなされなかった場合、事務局は失格と認定し、当該の申込を審査対象から除外する。

3) 例会発表の申込にあたって、でき

る限り未納会費がないよう、各会員に配慮をお願いしたい。

c. 退会者の扱いについて

退会には事務局の承認が必要であること、年度を遡って退会はできないこと、会費の未納があると退会が認められないこと、を改めて周知に務める必要がある。事務手続としては、退会が認められた段階で年度末退会者として扱い、当該年度の会員資格を留保する。とくに申し出がない限り、学会誌も発送する。

d. 『中国語学』の発送について

除籍確定者を除き、会費の未納があっても一律に発送する。未納者を抽出して発送を停止することは技術的には可能だが、そうすると、あとで未納分の会費の振込まれるたびごとに個別にバックナンバーを発送しなければならず、発送の事務処理がかなり煩雑になってしまうため、委託業務の範囲を逸脱する。

【審議事項】

1. ウェブリソース委員長の交代について

山崎直樹委員長が2012年3月末で任期満了となるため、後任として鈴木慎吾（大阪大）委員が推挙され、承認された。

2. 会則の改正について

平田会長より会員に関する会則の改正についての提案があり、承認された。詳細は本号「会則改正のお知らせ」（p.8）を参照。

3. 内規の改正と新設について

平田会長より以下の内規について、改正と新設の提案があり、承認された。

【改正項目】

• 賛助会員に関する内規

• 海外会員に関する内規

• 委員会に関する内規

• 会長および理事選出方法に関する内規

• 会費納入に関する特別規定

• 付則

【新設】

• 会員情報管理システムに関する内規

• 会計管理に関する内規

• 学会奨励賞選考に関する内規（2011年5月15日理事会承認、10月28日理事会改訂）

詳細は本号「内規改正のお知らせ」（pp.9-13）を参照。

4. 辞典編纂委員会の設置について

5. 予算案・決算案

5.1 2010年度会計決算案（次頁資料参照）

緑川幹事による報告・説明、及び矢放会計監査による会計監査報告があり、報告の通り承認された。

5.2 2011年度会計補正予算案（同上）

緑川幹事による提案・説明があり、原案の通り承認された。

5.3 2012年度会計予算案（同上）

緑川幹事による提案・説明があり、原案の通り承認された。

6. 顧問・名誉会員の推挙について

名誉会員に讃井唯允会員が推挙され承認された。顧問の推挙はなかった。

7. 次期理事の選挙結果について

佐藤晴彦選挙管理委員長より、次期理事候補についての選挙結果が報告された。結果については、本号「理事選挙会表結果報告」（p.3）を参照。

2010年度会計決算書（2010年4月～2011年3月） 2011年10月29日総会承認

＜収入＞（単位:円）	予算	決算
前年度繰越金	4,447,005	4,447,005
積立金	3,000,000	3,000,000
通常会員・海外会員会費収入	6,000,000	5,956,300
賛助会員会費収入	600,000	720,000
『中国語学』売上金	429,724	429,724
印税(著作権使用料)	24,000	24,000
通常貯金利子		551
寄付金		100,000
雑益		221,661
計	14,500,729	14,899,241
＜支出＞	予算	決算
会誌印刷費	2,800,000	1,822,695
大会助成費	1,310,000	1,310,000
支部活動助成費	600,000	483,179
通信費	550,000	420,465
事務費	950,000	956,142
事務局費	650,000	650,000
編集委員会経費	120,000	120,000
ウェブリソース委員会経費	120,000	120,000
ホームページ関連経費	0	0
大会運営委員会経費	220,000	220,000
旅費交通費	900,000	752,460
会議費等雑費	180,000	156,815
学会奨励賞	100,000	100,000
名簿印刷費	600,000	606,900
事務局移転初期費用	120,000	99,750
積立金	2,640,000	2,640,000
予備費	2,640,729	4,440,835
計	14,500,729	14,899,241

[積立金内訳] 記念大会積立金 (14 万) 事務委託関係積立金 (150 万)
 ウェブサイト構築積立金 (50 万) 国際会議開催支援積立金 (50 万)

監査の結果、経理内容は適正であり、経理諸表は適確に処理されていることを認めます。

2011 年 8 月 11 日

2010 年度会計監査 矢放昭文

2010 年度会計監査 沈 力

2011 年度会計補正予算案 (2011 年 4 月～2012 年 3 月) 2011 年 10 月 29 日総会承認

< 収入 >		< 支出 >		(単位:円)
前年度繰越金	4,440,835	会誌印刷費	2,800,000	
(通常貯金利子約 500 円を含む)		予稿集印刷費	500,000	
積立金	2,640,000	大会助成費	300,000	
通常会員会費収入	6,000,000	支部活動助成費	550,000	
賛助会員会費収入	600,000	通信費	550,000	
『中国語学』売上金	409,369	事務費	1,800,000	
予稿集売上金	450,000	大会事務費	800,000	
印税	32,000	事務局費	250,000	
計	14,572,204	編集委員会経費	120,000	
		ウェブリソース委員会経費	120,000	
		ホームページ関連経費	180,000	
		大会運営委員会経費	220,000	
		旅費交通費	750,000	
		会議費等雑費	180,000	
		学会奨励賞	0	
		選挙関連費	100,000	
		積立金	2,360,000	
		[内訳]		
		記念大会積立金 (18 万)		
		事務委託関係積立金 (118 万)		
		ウェブサイト構築等積立金 (50 万)		
		国際会議開催支援積立金 (50 万)		
		予備費	2,992,204	
		計	14,572,204	

2012年度会計予算案（2012年4月～2013年3月）

2011年10月29日総会承認

<収入>		<支出>	
		(単位:円)	
前年度繰越金	2,992,204	会誌印刷費	2,800,000
積立からの繰入金	2,360,000	予稿集印刷費	500,000
通常会員会費収入	6,800,000	大会助成費	300,000
賛助会員会費収入	780,000	支部活動助成費	450,000
『中国語学』売上金	350,000	通信費	500,000
予稿集売上金	450,000	事務費	1,600,000
計	13,732,204	大会事務費	800,000
		学会連合等年会費	42,000
		事務局費	350,000
		編集委員会経費	120,000
		ウェブリソース委員会経費	120,000
		ホームページ関連経費	180,000
		大会運営委員会経費	220,000
		旅費交通費	750,000
		会議費等雑費	180,000
		学会奨励賞	100,000
		名簿印刷費	780,000
		事務局移転初期費用	50,000
		積立金	2,400,000
		[内訳]	
		記念大会積立金 (22万)	
		事務委託関係積立金 (118万)	
		ウェブサイト構築等積立金 (50万)	
		国際会議開催支援積立金 (50万)	
		予備費	1,490,204
		計	13,732,204

例会および全国大会開催のお知らせ

第5回関東支部拡大例会・研究発表募集のお知らせ

日本中国語学会関東支部では、2012年3月17日(土)に、第5回拡大例会を開催します。現在、発表者を募集中です。みなさま奮って例会担当までご応募ください。

日時：2012年3月17日(土) 14:00～
場所：早稲田大学(戸山キャンパス)
応募締切：2012年1月20日

拡大例会での発表を希望される方は、発表題目と要旨(300字以内)を2012年1月20日までに電子メールまたは郵便で例会担当までお送りください。

☆ 詳細内容、発表者、発表要旨などは2013年2月中に学会(関東支部)ウェブサイトに公開予定です。

関東支部例会担当：
山下輝彦
〒108-8345
東京都港区三田2-15-45
慶應義塾大学文学部中国文学科
clsjkanto@gmail.com

(関東支部)

今年度の例会実施予定

各支部の今後の例会実施予定は次のようになっています。

北陸支部：2月
関東支部：3月17日(土) [拡大]
北海道支部：3月

近年は、支部を越えた活動も活発になっています。発表者、参会者ともに歓迎いたします。発表者の方には発表要旨(300字以内)の事前提出をお願いしております。この要旨

は、学会ウェブサイト上の例会案内のページでご紹介するとともに、年に2回発行の学会ニューズレターにも掲載しております。

なお、開催予定は変更になることがありますので、詳細は、各支部例会担当者までお問い合わせ下さい。担当者の連絡先は、学会ウェブサイトをご参照ください。

(事務局)

第62回全国大会開催のお知らせ

日本中国語学会第62回全国大会は、2012年10月27日[土]28日[日]の両日、同志社大学京田辺キャンパスにて開催されます。京田辺キャンパスは、京都との奈良の間に位置しており、祇園までは近鉄・京阪電車で約40分、奈良(奈良公園、東大寺)までは近鉄

電車で約30分です。近鉄・京阪沿線には東寺、伏見稲荷、東福寺などの有名な観光地もあります。どうぞふるってご参加ください。詳細は近日中にウェブサイトに掲載するほか、2012年6月頃に改めてご案内をお送りする予定です。(第62回全国大会準備委員会)

事務局からのお知らせ

■ 2011年度会費納入のお願い

会費未納の方には、11月末に振込用紙を同封して納入依頼のご連絡をお送りしました。年会費（一般会員6,000円、ネット会員5,000円）を最寄りの郵便局からお振込下さい。事務処理上、2011年12月31日までにご入金くださいますよう、御協力をお願い致します。

郵便振替 加入者名：日本中国語学会
口座番号：00980-6-282216

■ 顧問・名誉会員の推挙

顧問・名誉会員のご推挙は、推薦文を添えて2012年9月30日までに事務局宛にお願いいたします。

■ 予稿集の販売

過去の大会予稿集は好文出版にてお求めになれます。第59回までは1,500円、それ以降は2,000円となっております。詳しくは学会ウェブサイトをご覧ください。在庫につきましては好文出版（order@kohbun.co.jp）に直接お問い合わせください。

■ 会費未納による除籍者

（「会費納入に関する内規」による）

于振領、上江洲 基、衛 榕群、王 際平、王 平、葛 婧、曲 曉雲、胡 叡、胡 世光、鄒 楓、児玉 啓子、崔 佳琪、篠原 信行、白川 実子、井上 芳雄、蘇 文寶、曹 文、鷹野 由紀子、

段 威、張 英納、張 麗娜、陳 怡璇、田 忠魁、法村 矩子、馬 文莉、巫 宜靜、武 潔婷、藤井 聖子、藤井 游惟、方 紅、万 莉歆、山崎 みどり、游 麗満、楊 凡、李 在敦、李 利津、劉 永娜、廖 娟慧、林 恭良。（以上39名）

■ 住所不明の会員

お知り合いの方がおられましたら、ご連絡をお願いいたします。

杉山 一也、陳 愛佳、佟 利功、三須 祐介、吉田 慶子、李 孟娟、劉 曉晴、劉 金子、呂 仁梅

■ 事務局への連絡先

各会員の登録情報は、学会ウェブサイト（<http://www.chilin.jp/>）内の e-naf（オンライン会員情報管理システム）から、会員ご自身でログインして確認と更新ができます。事務局への問合せは、学会ウェブサイトの「お問い合わせ」ページをご利用ください。

なお、事務局は2012年4月に移転いたします。新住所は学会ウェブサイトをご覧ください。

重要なお知らせ

- 2012年度から、「日本中国語学会全国大会研究発表応募に関するご案内」「全国大会研究発表応募規定」の送付がなくなります（詳細は本号 p.3 をごらんください）。
- 「会員情報管理システム(e-naf)」での個人会員の住所・勤務先等変更画面の入り方本システムは、住所や勤務先の変更があったときに自分で情報の修正ができます。

(1) まず ID とパスワードで e-naf にログインし、「会員登録情報」をクリック。



(2) 出てきた画面下端の「修正」をクリックすると、自分で直せる画面が出ます。



ぜひすべての個人会員がログインし、内容を確認して下さるようお願いします。

日本中国語学会々報 2011年秋季

(年二回発行)

発行者：日本中国語学会事務局

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

京都大学文学研究科中国語中国文学研究室内

E-mail: jimukyoku.10-12@chilin.jp

URL: <http://www.chilin.jp/>

発行日：2011年12月20日